2020年10月7日発行・発売（毎月7日発行・発売）第17巻第15号　平成16年9月13日第三種

シンプル・上質・エレガント
本質を極めるラグジュアリー・ファッション誌

Precious プレシャス

https://precious.jp/

2020
NOVEMBER

鈴木保奈美主演
『SUITS/スーツ』な女の
「コート」2か月
コーディネート

価値観を見つめ直して辿り着いた
プレシャス・キャリアの
「必要」「大切」「好き」

二宮和也×妻夫木 聡
仕事人ふたりの
プロフェッショナル対談

＜別冊付

40代からの「自分を
新時代の時計63本を
最新ウォッチBOO

新発想のスキンケアプロ
「肌留学」という美容

NEW OPEN
美と癒し
「おこもりホテ

＜秋のファッション大特集＞
Preciousスタイリスト直伝！
季節の始まりに着こなしの核になる色を決めたら、
おしゃれはもっと輝き出す！

今秋、スタイルのある大人が選ぶ
「Myベーシックカラー」
3つの正解
「新ベージュ」
「ハッピー・モノトーン」
「旬の森カラー」

グラナダの陶器、マジョルカ島の吹きガラス、ラマンチャの籐細工。木綿のバッグや葦のマット…。旧きよきマドリードの面影を残す風情あるラティーナ地区の雑貨店「ココル」に並ぶのは、スペイン各地で昔から暮らしのなかで愛されてきた伝統品の数々。店内を優しく満たす干し草のような香りが、不思議なノスタルジーを誘う。

「店を訪れた人はよく、『田舎のおじいちゃんおばあちゃん家にいるみたい』って言っています。夏休みの思い出を話し始めたりね。北部の人も南部の人も、島の人も、スペイン人ならだれでも懐かしさや親しみを感じられるのも、この店の自慢。スペインは地方色がすごく強い国だけれど、ここにあるのは、どこか特定の地域の伝統品ではなく、昔、どこの家にもひとつはあったような品々なんです。そういう、宣伝されてないけれど素晴らしい伝統品を集めた場所をつくるのが、私の夢だったから」

国際経済と国際発展開発を学び、大学院修了後は世界各地に病院をつくるプロジェクトに携わっていた彼女が、なぜ雑貨店を?

「この場所が貸し出されているのを見て、閃いたんです。それまでずいぶん長い間、頭のなかだけであれこれ考えていたけれど、あ、ここで店をやろう、と。そこからは早かった。まるで磁石のようにさまざまなものが集まってきて、4月にここが貸しに出され、7月1日に賃貸契約を交わし、26日に開店(笑)。3年前のことです」

「ココル」はアンティークショップではない。スペイン各地で今もつくられている伝統品と、伝統に学びながら現代のエッセンスも加えたものを仕入れている。「ネットはないから注文は電話で」とか、「電話じゃわからんよ、あんたがここへ来て好きなものを持っていけばいい」とか、「あのデザインはもう飽きたからつくらないよ」とか、古くて頑固な職人たちとアナログなやりとりを繰り返しながら、彼女は商品を集めていった。

ふたりの娘が学校帰りに友達を連れて〝ママの店〟に寄る。そんな、なんでもない日常の愛おしさが、「ココル」にはあふれている。

Profile

48歳。大学と大学院で国際経済と国際発展を学ぶ。卒業後、世界各地に病院を開業するプロジェクトを行う会社で15年働く。その後フリーランスとして事業に携わる。2017年、20代後半から暮らすラティーナ地区で、スペインの伝統品を扱う雑貨店をオープン。夫と18歳、13歳のふたりの娘がいる。

スペイン各地から暮らしの名品を集めたノスタルジックな雑貨店

雑貨店「ココル」オーナー

マリア・ホセ・エントレナさん

Maria José Entrena

ていねいに陳列された作品からは、息吹が聞こえるかのよう。

●世界各国キャリアへ、5つの質問

Q1 仕事の成功のためにしている習慣は?
直感を大事にする。

Q2 バッグに必ず入っているもの3つは?
マスク、携帯電話、オレンジの花ウォーター。

Q3 あなたの街のストレス解消スポットは?
店が立つ広場にあるバル「ティオ ティモン」。

Q4 理想の週末の過ごし方は?
家族や気のおけない友人と食事。遠足に行くことも。

Q5 人に言われてうれしいほめ言葉は?
「あなたのこの店は、詩人の仕事だね」

Life is so Precious!

仕事も人生も
もっと楽しく! 美しく!

撮影/Javier Peñas